

令和4年度（社福）こぶしの会事業計画

国際問題を含めて日本経済の見通しが大変厳しい現状がある中、予想される経済的・政治的情勢に対応することが困難な状況下にある。（第4回長期計画策定経過での意見より）

さらには、新型 CORONA 感染症の影響が長期にわたることが予想され、ウィズ CORONA の事業継続全体に不安をつのらせた。少子高齢化の最大の課題である福祉職の人材難と管理者層の養成課題、地域福祉型の労務管理の困難さもあり、今年度の活動は、地域リーダー会議や職場会議、各層の研修を通じて地域生活を支えるしくみづくりと実践に少しずつ反映し、具体的な支援と連携の在り方を探ってきた。また、法人理念に基づく「こぶしマインド」のスローガンや、こぶしの会の実践の歴史、地域包括支援システムの形成をどのように整備していくか、長期計画の目標に向かって指導してきた。一人一人の職員のコミュニケーション、事業と事業の連携（コミュニケーション）、また、労働条件の厳しさや、福祉経験の格差、世代間の考えの違い、障害者観の違い等による、ディスコミュニケーション等の現実的困難をひとつひとつ対応しながらも、共通して成果を見出すには困難な道のりであるが、困難をやりがいと受け止め、次年度の計画を提起したい。

令和4年度（社福）こぶしの会全般的経営計画の項目は次の5点

- 1 地域と事業所に責任の持てる管理者層の育成と管理者層を中核とした学び・実践する職場と地域連携組織の構築
- 2 教育・研修、プロジェクトによる新たな事業づくりや、法人の制度作りを通じた現場と理事会の連携強化
- 3 法人組織強化に見合った、当事者・家族、地域住民との連携強化
- 4 「こぶしマインド」を言語化共有し、組織活動を通じてその内実を構築
- 5 職員・利用者・家族が豊かな地域生活と生きがいある人生をささえる財政基盤を構築し安定的かつチャレンジする組織づくりをめざす。

以上、であるが、内容は、地域、事業所、サービス区分ごとの諸課題、マネージメント項目に応じて、深い現状分析をおこない、年間を通じて実践の分析、計画の修正をしつつ、こぶしの会理念実現に向けた具体的で小さな実践を積み重ね「こぶしマインド」にあふれた法人を創っていく。

- I 地域と事業所に責任の持てる管理者層の育成と管理者層を中核とした学び・実践する職場づくりを地域連携組織を通じて実施する。
 - 1 全職員の会議参加（臨時・パート職員との情報共有）
 - 2 研修の実践化と決議事項の実施（管理者を通じた現場実践のマネーজে

ント)

- 3 会議・研修の実施要綱の見直しと各会議・研修での実施
- 4 分野別、階層別の実践交流

II 教育・研修、プロジェクトによる新たな事業づくりや、法人の制度作りを通じた現場と理事会の連携強化

- 1 教育・研修委員による、年間を通じた管理者・サービス管理職員研修の実施
- 2 中堅職員(分野別)研修の実施
- 3 新任職員研修の実施
- 4 家族サポーターの組織と家族研修の実施
- 5 ピアサポーターの養成と当事者ネットワークの構築・研修の実施
- 6 地域サポーターの組織づくりと公開講座と実践報告会の実施

III 法人組織強化に見合った、当事者・家族、地域住民との連携強化

- 1 地域ごとの全職員事業説明会の開催
- 2 全地域事業説明会(利用者・職員・地域サポーター)の開催
- 3 法人家族会の検討と適時、家族との交流
- 4 法人友の会の検討と漸次組織
- 5 各PJでの連携

IV 「こぶしマインド」を言語化共有し、組織活動を通じてその内実を構築

- 1 服務規程・新任職員研修で学んだ支援原則を遵守し人間尊重の職場環境をつくる。
- 2 職務マニュアルに沿った業務の実行と管理者マネジメント
- 3 個別事業計画をすすめる事業所管理者・サービス管理ら帰任者の権限の発揮
- 4 ITシステムを有効活用した情報共有による普段の学びの集荷形成
- 5 こぶし理念による支援の柱を大切にした諸活動づくり

V 職員・利用者・家族が豊かな地域生活と生きがいある人生をささえる財政基盤を構築し安定的かつチャレンジする組織づくりをめざす。

- 1 事業別の事業継続財務管理の構築と事務センターによる財務管理を支える資料の適時報告
- 2 新規事業を見通した利益を生み出す財務システム構築
- 3 就労支援事業と福祉事業全体の会計・財務活動管理の検討

- 4 未来のエネルギー政策と福祉事業の見直し
- 5 新たな資金活動の検討